



交通信号工事士 技能検定要領 告知 更新講習会開催

ごあいさつ



常務理事 松原一朗

(北明電気工業(株)
代表取締役社長)

平成27年の干支は「未(ひつじ)」です。「未」は、『漢書律曆志』によると食物が茂って暗い、果実が熟した状態を指すことから転じて豊作への願いへと変わっていったようです。また「祥」にも通じ、それは中国の吉祥動物の一つなのですが、その文字の意味から転じて、家族の安泰、平和の意味を持つようになったともいわれています。

平成26年度から交通信号工事士技能検定は一般公開となり、どなたでも受験可能となりました。また、全国一斉に実施されることとなりました。

技術講習会は、誤解を生じないよう更新講習会と名称を変更いたしました。内容については、まったく同じものです。

この二つは当協会の主要な事業であります。より多くの方に参加していただきたいのです。そのため平成27年度版要綱は少しでも早く皆様の目に留まるよう平成26年末に発表いたしました。

さらに交通信号工事施工ハンドブックの続編、改訂編纂業務、1級交通信号工事士検定の準備等が確実に進行しております。

平成27年度は、当協会にとってまさに事業という果実が熟れる年ではないのでしょうか。

今後ともこれらの事業を着実に推進し発展させることにより、これらの事業の意義や社会性を広く世間に浸透させ、全国の警察に認知していただくよう会員皆様と協力して努力していきたいと考えています。

なお、参考として会員皆様への情報発信ツールであるホームページのリニューアル(例えば、スマートフォンで閲覧可能、会員専用ページの大幅な開放等)を推進中でありますので今後とも大いにご活用をお願いします。

交通信号工事士の皆様へ

交通信号システムは、道路交通の安全と円滑を図るための極めて重要で高度な機能を保有している社会システムであります。このシステムを建設し維持するためには幅広い分野の優れた知識と技能が要求されます。いかなるシステムも社会の人々と直接的に接する部分が最も重要であります。この意味で交差点に設置する交通信号機はこのシステムの要である重要な設備であります。この仕事に携わる信号工事士の皆様はこの重要性をよく認識していただき、自信と誇りを持って業務を推進していただきたいと思っております。皆様方のご活躍が世界に誇る素晴らしい日本の道路交通システムを支え、ひいては信号工事業界の健全な発展に大きく寄与していただけることと思っております。どうか継続的に交通信号工事士としてご活躍していただきますことを期待しております。

現在2000名以上の方が交通信号工事士の資格を有しておられますが、皆様方には協会からご連絡や願いを申し上げることが多々あります。しかし、個々の方々全員にこれを行うことは極めて困難であります。そのため今後は当協会のホームページへ関連記事をUPさせていただきますので、機会あるごとにこのホームページをご覧くださいませようようお願い申し上げます。

具体的な記事

- 信号工事士検定試験
- 講習会規定、講習会案内、講習会受講手続き
- 信号工事士更新手続き、更新経費徴収
- 人定事項変更手続き
- 各委員会活動状況
- 協会からの関連資料の送付・会員会社員は会社へなど



平成27年度交通信号工事士 技能検定実施要領

1 「交通信号工事士」技能検定制度の意義

交通信号施設工事に従事する人材の育成と専門能力の向上を目的に『一般社団法人全国交通信号工事技術普及協会』（以下、「全信工」という。）独自の認定資格として、この分野の業務に従事する者で一定の能力を有すると判断される者を『交通信号工事士』と称する検定制度を平成23年度から発足させ、「第2種交通信号工事士」としての試験を、全信工会員を対象に実施してまいりましたところ、交通信号施設工事関係者から「広く門戸を開けて」との要望に応え、平成26年度から会員以外にも、誰でも参加できるように致しました。

なお、本資格は、交通信号工事士としての総合技術力を当協会が認定するものであり、個別作業においては各々関係法令に基づく資格が必要です。

2 試験科目

(1) 知識

交通信号施設工事に必要な一般的事項、交通信号施設工事技術、関係法令、交通工学、交通信号施設機器等に関する知識

(2) 技能(下記の何れかの分野について必要な技能を有すること。)

交通信号施設設計に関する業務、交通信号施設電気工事に関する業務、交通信号施設通信工事に関する業務
交通信号施設土木工事に関する業務、交通信号施設機器製造に関する業務、交通信号施設材料に関する業務
交通信号施設保守に関する業務、交通信号施設の安全管理に関する業務

3 試験日等

(1) 受験資格

特に定めません

(2) 受験申込期間

平成27年4月1日(水)から平成27年5月20日(水)(当日消印有効)

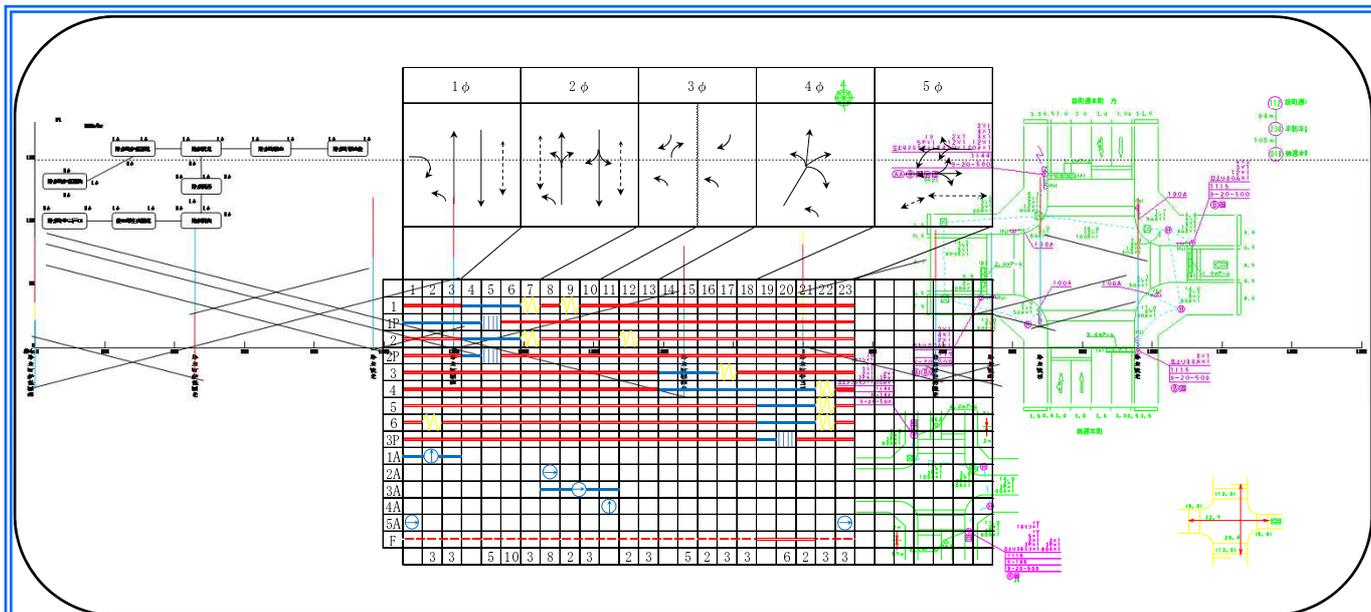
(3) 試験日

平成27年8月2日(日)

(4) 受験地

地域	北海道	東北	関東	北陸・信越	東海	近畿	中国・四国	九州
受験地	札幌市	仙台市	東京都	新潟市	名古屋市	大阪市	高松市	福岡市

詳細はホームページをご覧ください。 全信工ホームページ <http://www.zenshinko.jp>



平成27年度 交通信号工事士更新講習会の開催

第2種交通信号工事士の皆様は、一般社団法人全国交通信号工事技術交通信号工事士技能検定規程(以下、「規程」という。)第11条により、工事士之証の交付日より起算して5年以内毎に、本会が主催する更新講習を受講することが義務付けられております。

つきましては、平成27年度の交通信号工事士更新講習会を下記とおりに開催致しますのでご案内申し上げます。

記

1 受講申込期間 **平成26年12月1日～平成27年2月27日**

受講会場定員欄の定員になり次第受講申請を締め切ります。

2 受験地及び内容

開催日	開催都市 / 開催会場	定員
4月11日(土)	福岡県福岡市早良区 / 福岡医療専門学校	25
4月13日(月)	岡山県倉敷市 / 倉敷市芸文館	60
4月14日(火)	大阪府大阪市中央区 / 大阪府社会福祉会館	50
5月15日(金)		50
4月21日(火)	神奈川県小田原市 / 小田原市民会館	65
4月22日(水)	東京都千代田区 / 科学技術館	60
5月19日(火)		60
5月27日(水)		60
5月11日(月)	北海道札幌市中央区 / 北農健保会館	60
5月13日(水)	岩手県盛岡市 / アイーナいわて県民情報交流センター	100
5月22日(金)	愛知県名古屋市中区 / 名古屋企業福祉会館	70
5月28日(木)	埼玉県さいたま市大宮区 / 大宮ソニックシティ	40

3 講習内容

- (1) 講習1「交通信号制御機の構成と機能性能」講師 伊野部 孝男 元松下通信工業(株)
最近の交通信号制御機について、基本的な機能とその性能及び付加機能
- (2) 講習2「交通信号制御の基礎知識」講師 倉田 英郎 元三重県警察
信号交差点の渋滞対策と事故防止、信号機を設置するための三大要素(交差点、設計、運用)
- (3) 講習3「安全管理の方法」講師 坂東 喜行 元オムロンフィールドエンジニアリング(株)
健康に働くことと安全に作業する方法、関連する法令、病気や事故防止、事故事例

※ 交通信号工事施工ハンドブックを持参願います。

『企業理念・方針の広報強化』

アベノミクス効果、東京オリンピック開催決定効果の影響であろうか建設業界は活況を呈し始めている一方で、我々交通信号工事業界は高齢化社会が進む悪条件のなか若手人材不足が大きな経営課題となっている。

将来、より悪化してゆく人手不足環境下において、優秀な若い人材の採用及び教育の成否がそれぞれの企業存続に直結するはずである。企業は人であるのであるから。

ひと昔前なら熟練した職人を大勢かかえた工事業者が躍進していく我々業界であったが、熟練職人に加えて今必要とされている人材は「マネジメント能力ある人」と言われている。マネジメント能力とは余りに意味合いが大き過ぎるので、必要な人材をいままじ絞りで表現すると「自律型人材」と言える。

「皆が経営者の気持ちになって仕事をする」ことが大切と言われることもあるが、これは無理であるし組織として成り立たないであろう。必要とされている自律型人材を構築する要素としては三つある。①理解(解っている)②実践(やる力を持っている)③共感(やりがいを持っている)となる。

最も重要なのは共感であると思っている。すなわち「自律型人材」にはやりがいの有無が基本であろう。仕事に「共感」し、やりがいを持つ状況とは、自分自身の仕事に対して「これこそ今自分が取り組むべきこと」と十分に共感し、強く動機付けられていることである。

我々は交通信号機の設置や修繕をして「市民の安全に寄与している実感」を日々強く感じており、仕事を通じて常にやりがいを感じられる環境にある。すなわち自律型人材構築の三要素を全て満たしている社員ばかりなのに、なぜ求める自律型人材が不足しているのと感じるのであろうか。

一つ考えられるのは、会社の理念・方針の展開徹底が不足していることによるのである。社員各々は、社会貢献している現業務遂行に対して「自立型人材」なのではあるが、企業目標である社会貢献に続く今ひとつの目標である「継続する企業」に対して「自律型人材」としての活動が比較的弱いと思う。

交通信号工事業界では、日々の業務遂行があまりにも社会貢献を実感できるために、自らが所属する会社の理念・方針にあるであろういまひとつの視点「企業継続」への課題構築姿勢が希薄になっているのではないだろうか。若く優秀な人材に就職先として、交通信号工事業界における自社に興味を持たせるには、自社が社会貢献出来る価値を創造することと企業継続してゆくことの両面で、強い決意と実行力があることを認知させる必要がある。

新たな人材を育ててゆくには、採用実現が前提にある。まずは会社の理念・方針を明確に打ち出し、若い人材にその一端を担っていくことに「やりがい」を見出すことが可能と認知させ、なお仕事の遂行を通し自分自身が確実に成長していくことができるという確信を持っていただける為の広報活動を確実にすることが必要である。

日本においては、文化風土面から帰属意識の薄い人材ばかりでは組織として危ういことは事実だが、これからもより強く要求される革新実行において、我々の業界は組織として企業継続に対する自律意識強化促進が未だ弱いと見えてならない。

かたや社会保障予算を自らの肩にずっしり背負わされている若者たちは、帰属意識から自律意識への脱皮を目指しA・マズロー 日頃の「自己実現」を熱望し「やりがいある仕事」を求めています。

このような目標と夢を持つ優秀な若者と、明確な理念・方針を掲げそれを実践している企業とが一緒に仕事することで、入社した若者を大きくステップアップさせられることの価値創造と同時に、それぞれの企業が新しい展開を促し、『社会に存続を求められる企業』として次世代へ繋げてゆくことが出来るのではないのでしょうか。

共栄電業株式会社 代表取締役社長 笠島浩一

お問合せ先

〒130-0026 東京都墨田区両国二丁目1番4号
一般社団法人全国交通信号工事技術普及協会事務局
TEL:03-6659-3586 FAX:03-3846-5582
URL:<http://www.zenshinko.jp/> E-mail:info@zenshinko.jp